

令和7年度 学校経営方針について

校長 栗山幸彦

(1) 学校経営の方向性

- ①児童の実態や課題に応じた**具体的な取組**を行うこと。
- ②教職員の資質向上を意識し、**学び高まり続ける学校組織**であること。
- ③**学校・家庭・地域の連携・協働**による「**地域総がかりの子育て**」の継続。
- ④なお一層「**働き方改革**」の推進、「**子供と向き合う時間**」の確保に努める。

(2) 学校教育目標

長崎県の教育方針

長崎市の教育方針

児童の実態、地域の願い

伸 ば そ う 力 ・ 磨 こ う 心

～ 笑顔で 賢く たくましく ～

(3) 学校経営方針

「**みんなで作る 滑石小**」

校風

な か ま に め ぐ ま れ た し あ わ せ な 学 校

目指す学校像	目指す子供像	目指す教職員像
<ul style="list-style-type: none">○目標や夢を抱きたくなる学校○豊かな学びや経験のある学校○挨拶や感謝の言葉が当たり前の学校○子供も職員も元気な学校○子供が愛着を持ち、大切にしようとする学校○地域と共にあり、地域に愛される学校	<ul style="list-style-type: none">○心優しい滑石っ子<ul style="list-style-type: none">・挨拶ができる子・ありがとうと言える子○考え工夫する滑石っ子<ul style="list-style-type: none">・目標を立てて学ぶ子・意欲的に学習に取り組む子○心も体もたくましい滑石っ子<ul style="list-style-type: none">・やる気を持って自ら動く子・諦めない子○決まりを守る滑石っ子<ul style="list-style-type: none">・自分の役割に責任を持って取り組む子・きちんと時間を守る子	<ul style="list-style-type: none">○教育者としての使命感に満ちた教職員○「社会を生き抜く力」をしっかりと育む教職員○子供や保護者に寄り添う教職員○地域に溶け込み、地域を愛する教職員○「ワーク・ライフバランス」を実践する教職員

(4) 令和7年度 重点努力事項

(第4次長崎市教育振興基本計画) 2025年の目指す子どもの姿

「子どもが、長崎のまちを愛する気持ちを持ち、変化に対応しながら、新たな時代を生き抜く力を身に付けている。」

基本施策

長崎のまちを愛し、新たな時代を生き抜くこどもを育みます。(G1)

「確かな学力の向上」「健やかな心と体の育成」「家庭・学校・地域の連携による教育の充実」「安全・安心に学べる教育環境の整備」



(重点1) 「一人一人に寄り添う」個に応じた教育実践

- ①「滑石っ子を語る会」の充実による校内支援体制の確立
- ②「校内支援委員会」を中心とした、特別支援教育に関する教職員の資質及び児童理解の向上・深化
- ③関係機関やスクールサポートスタッフ（SC、SSW、支援員）との連携
→必要な時は、直ちに管理職やコーディネーターに報・連・相
- ④児童・保護者・地域関係者への誠実な対応
→気になることは、その日その時即対応

(重点2) 「気付くまで」「できるまで」「分かるまで」の授業

- ①「T・T」「少人数・個別指導」等を生かしたきめ細かな授業
- ②基礎学力の定着（「スキルタイム」「読書タイム」「家庭学習」）
- ③1日に1回はクロームブックを活用した授業を行う
ICT機器・デジタルコンテンツの積極的な活用
(授業・家庭学習・校務処理：キュピナ・メクビット・Canva・FigJam等)

(重点3) 「四つの『あ』」を中心に据え、当たり前前的事を 当たり前前にできる子供に育てる生活指導

- ①「あいさつ」「あいてのきもち」「あるきかた」「あとしまつ」の「四つの『あ』」を、いつでも、どこでも、先生がいなくても、できる子に
- ②生活目標の振り返り→意識させ、徹底・継続させてこそ身に付いていく
- ③「生活アンケート」の実施・対応
教師が普段把握できていない困り感、子供一人一人の声を拾い上げて対応することにより学校生活への満足感向上→学校への信頼向上
- ④「自治的・自発的活動」の場づくり（委員会、係、ボラ、縦割り、集団下校）
→児童会活動の更なる活性化、子供たち自身に考える力と実践力を
- ⑤「動と静」のめりはり「無言移動」「無言掃除」「集まったときの待ち方」

(重点4) 「みんなでつくる滑石小」をモットーとした学校・家庭 地域の連携・協働

- ①学校からの「情報発信」（ホームページ、学年・学級便り等）
- ②地域人材の活用→各学年1回は、地域人材の活用を検討する。
- ③育友会との連携による懇談会の活性化、学校保健委員会の活用
→「基本的な生活習慣」「適切なメディア使用」は家庭での指導が不可欠
- ④図書館教育の充実、家庭読書の推進（学年に応じて新聞の活用も）

(重点5) 「元気」「やる気」「根気」につながる保健・安全指導

- ①「基本的な感染症予防」の継続 → 手洗い、換気、健康観察
- ②「早寝、早起き、朝ご飯」の定着
- ③集団生活の場としての危機管理意識の向上（学校事故を起こさない）
預かった子供の健康・安全は最優先事項。熱中症防止も含む。